

# 諏訪の農業用水と坂本養川の年表

藩政関係    農業の基盤整備    坂本養川の履歴    養川の対応と提案    農業用水関係

年号	西暦	月日	事項
慶長14	1608		立沢新田が開発される。
15	1610	1月	原山新田(中新田)が開発される。
元和1	1615	5月	大坂夏の陣が終わり、元和偃武と呼ばれる戦争のない時代が来た。
4	1618		払沢新田が開発される。以後17世紀末までに、八ヶ岳山麓や各地の原野に、70余の新田が開発される。
寛永21	1644	3月	矢ヶ崎村惣検地が行われる。
万治3	1660		古一ノ瀬せぎ開削される。前後して自然流と同じ方向に流れる多くのせぎができ、畑の水田化が進む。
貞享2	1685		柳川から田沢せぎを引く。
宝永2	1705	3月9日	芹ヶ沢村、風除を植樹する。
享保21	1736	3月15日	養川、田沢村に生まれる。幼名は太郎。
宝暦5	1755		養川、結婚する。
6	1756		新切(新しい開墾)・畑直(畑を水田にすること)が禁止。
8	1758		養川、田沢村名主になる
12	1762	12月頃	養川、尾張(愛知県)・伊勢(三重県)・紀伊(和歌山県)・摂津(大阪府)・大和(奈良県)・山城(京都府)の旅に出る。
13	1763	8月	養川、江戸へ出るが、連れ戻される。
明和1	1764	11月	田沢村、他村の新田漬しを始める。
		暮れ	養川、田沢村名主を勤める。翌年暮れまで。 家老千野貞亮(兵庫)ら三之丸派が新役所を設立、家老諏訪頼保(大助)ら二之丸派との対立が始まる。
3	1766		養川、再び江戸へ出る。
8	1771	2月	柳川新せぎの水論が起きる。
安永2	1773	5月18日	養川、病んで江戸から通し駕籠で帰る。
3	1774		養川、諏訪全部の水利の調査をする。
4	1775	12月	養川、せぎの開削を提案する。(第1回)
6	1777	6月	養川、せぎの開削を提案する。(第2回)
7	1778	7月	養川、せぎの開削を提案する。(第3回)
8	1779	5月11日	養川、せぎの開削を提案する。(第4回)
9	1780	2月5日	養川、せぎの開削を提案する。(第5回)
天明3	1783	7月3日	家老千野貞亮(兵庫)、家老諏訪頼保に切腹を命じ、二之丸派数十人を処罰し、二之丸騒動(御家騒動)が決着する。
		9月	養川、せぎの開削を提案する。(第6回)
5	1785	10月17日	滝之湯せぎが開削される。
6	1786		一之瀬せぎ・坪之端せぎ・柳川新せぎが開削される。
8	1788	6月1日	養川、せぎ筋肝煎になる。
寛政3	1791		鬼場新せぎ・千ヶ沢新せぎ(小六せぎ)が開削される。
			鳴岩せぎの増水せぎが開削される。
4	1792		車沢せぎ・塩の原せぎ・立場川乙事せぎ・程久保せぎ・大河原せぎが開削される。
11	1799		相之倉せぎが開削される。
12	1800		棚田せぎ・矢戸倉せぎ・高木せぎが開削される。
享和1	1801	7月13日	養川、小鷹匠格になり、坂本姓を名乗る。
文化1	1804	4月28日	養川、御引替願いを許され、隠居する。
6	1809	3月1日	坂本養川、亡くなる。享年74歳。
大正4	1915	11月	坂本養川、従五位を追贈される。